

平泉 ってどんなところ？



12世紀に奥洲の都として栄えた平泉(ひらいずみ)は、1095年頃に藤原清衡が平泉に居を構えたのが始まりである。

1189年、源頼朝に侵略されるまでの約100年の間、「黄金花咲くみちのく」という言葉どおりの優美な平安王朝文化の花を咲かせました。その権勢は、豊富な「黄金」を背景とし、南は福島県白河関から、北は青森県の外が浜までを統治するほどでした。



平泉の文化遺産

中尊寺

嘉祥3年(850年)、天台宗の高僧慈覚大師が創建した寺で、その250年ほど後、江刺豊田館から平泉に居を移した奥洲藤原氏初代清衡によって多宝塔や二階大堂など多くの堂塔が造営された。自らも家族を戦で失った清衡は、前九年・後三年の合戦において亡くなった人々の霊を敵味方の区別なくぐさめ、偏狭の地といわれたみちのくに、仏国土を建設しようという目的を持っていたのだった。14世紀には、堂塔のほとんどを焼失したが、天治元年(1124年)に完成した金色堂をはじめ、3,000点以上の国宝や重要文化財が現在もこの地に守り伝えられている。



身照寺(しんしょうじ)

宮沢賢治の菩提寺。1394年(応永元)に開山した日蓮宗の古刹で、別名を身延別院(みのぶべついん)という。藩主南部家の菩提寺でもあり、鎌倉期に作られたといわれる日蓮上人像がある。宮沢賢治は、19歳のとき初めて妙法蓮華経を読み感激したという。

【所在地】岩手県花巻市石神町389



瑞巖寺(ずいがんじ)

伊達家の菩提寺で正式名称を「松島青龍山瑞巖円福禪寺」という。現存する本堂・御成玄関、庫裡・回廊は国宝に、御成門・中門・太鼓塀は、国の重要文化財に指定されています。平安時代の初めに開創され、現在は臨済宗妙心寺派に属している。

【所在地】宮城県宮城郡松島町松島町内91